

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立加悦谷高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	京都府立加悦谷高等学校 第2学年1組・2組アスリートスポーツコース 6名 (男子5名・女子1名) 陸上競技部員 29名(男子17名女子12名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(スポーツ探究) ② 行事名() ③ その他(陸上競技部員) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他 () ③
4 目標 (ねらい)	特別支援学校の生徒とのスポーツ交流を通じて、障がい者理解を深め、他者への共感や思いやりの心を育てる。
5 取組内容	(1) パラリンピックへの理解 特別支援学校の生徒と本校アスリートスポーツコースの生徒でソフトボール、卓球、卓球バレーの3種目でスポーツ交流を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は中止した。そのため、改めてスポーツ探究授業でパラリンピックについて学んだ。 ①令和3年1月12日(火)3限にパラリンピックの歴史や種目、使用器具について学んだ。 ②翌週1月19日(火)3限にパラリンピックの学びから障がい者理解、アンチドーピングについて学んだ。 特別支援学校と本校の陸上競技部員で合同練習を実施する予定であったが上記の理由と同じく本年度は中止した。
6 主な成果	(1) パラリンピックへの興味関心の育成 パラリンピックの種目やカテゴリー分け、ルールなど授業で紹介したものは多くはないが、それらをこの授業で初めて知っ

	<p>た生徒が多くいた。</p> <p>(2) 障がい者理解</p> <p>パラリンピックについて学んだ後の、アンチドーピングや障がい者理解をテーマにした授業では、共生社会やスポーツの価値についても深く考えることができた。本校は昨年まで文化祭時の支援学校との交流会や陸上競技部による定期的な交流会を実施していることもあり、これらの学びを次回の交流に活かしたいと述べていた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	(1) パラリンピックの学びを生活に生かせるようスポーツについての価値、障がい者理解というテーマへ結びつけるよう内容を考え実施した。
8主な課題等	実施予定であった交流会については冬の時期は感染症の影響が大きいため開催時期を検討したい。
9来年度以降の実施予定	今年度行う予定であったスポーツ交流や部活動の合同練習を来年こそは行いたい。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響によって直接的な交流が難しいときはリモートなどを駆使し、交流が続けられるよう工夫したい。